

アンケート「令和3年度 おいしい食べきり運動推進事業」

【 90名回答 】

1. あなたの家庭では、どのような食品ロスが発生しますか。（複数回答可）

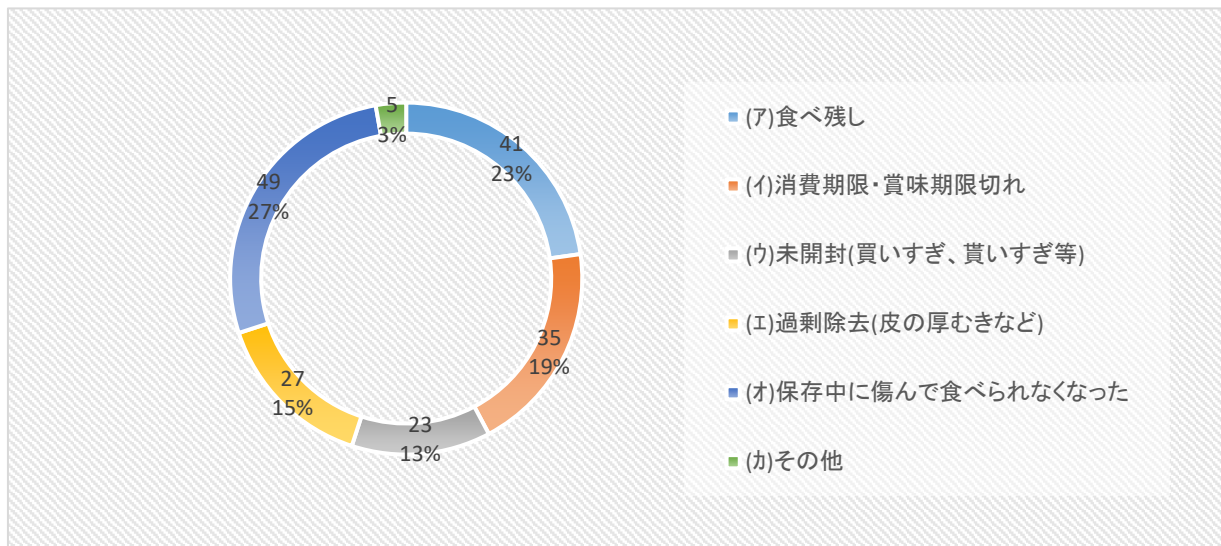
(ア) 食べ残し	41
(イ) 消費期限・賞味期限切れ	35
(ウ) 未開封(買いすぎ、貰いすぎ等)	23
(エ) 過剰除去(皮の厚むきなど)	27
(オ) 保存中に傷んで食べられなくなった	49
(カ) その他	5

残らない。堆肥作りに活用。

無し。

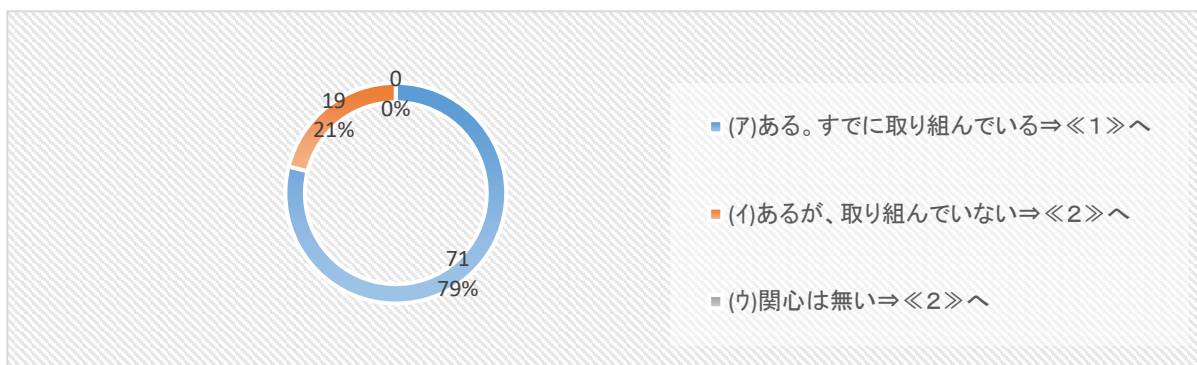
ほとんどロス無し。

だいたい食べきるが、ソース、マヨネーズ類などなくなりかねます。



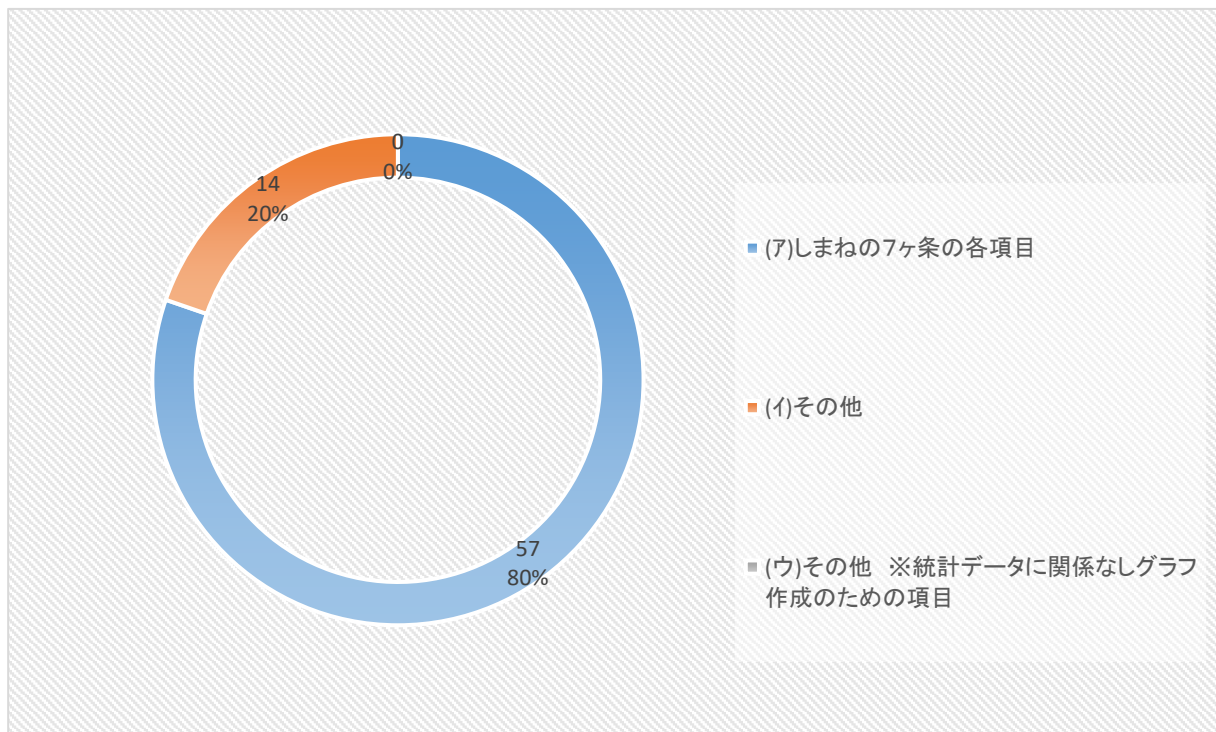
2. あなたは食品ロスの削減に関心がありますか。

(ア) ある。すでに取り組んでいる⇒《1》へ	71
(イ) あるが、取り組んでいない⇒《2》へ	19
(ウ) 関心は無い⇒《2》へ	0



◀ 1 ▶ 取り組んでいるものを教えてください。(複数回答可)

(ア)しまねの7ヶ条の各項目	57
(イ)その他	14
(ウ)その他 ※統計データに関係なしグラフ作成	0



冷凍庫の引き出しに野菜、魚介類と名札を貼っておく。

残渣は友人のコンポストに入れさせてもらう。

残飯のたい肥化。生協の商品が届いてから次週の注文をしている。

野菜のクズで出汁取り。干し野菜作り。人参は皮のまま使う。

残菜や野菜のクズ等はコンポストや畑に埋める。

野菜は全部食べる

2人暮らしなので、野菜炒めなどはフライパンを小さいのを使用

ボカシで生ごみリサイクル

人におすそ分け。あげる。

ボカシで肥料作り。

食べ残しのモノは翌日に会社の皆に食べてもらう。

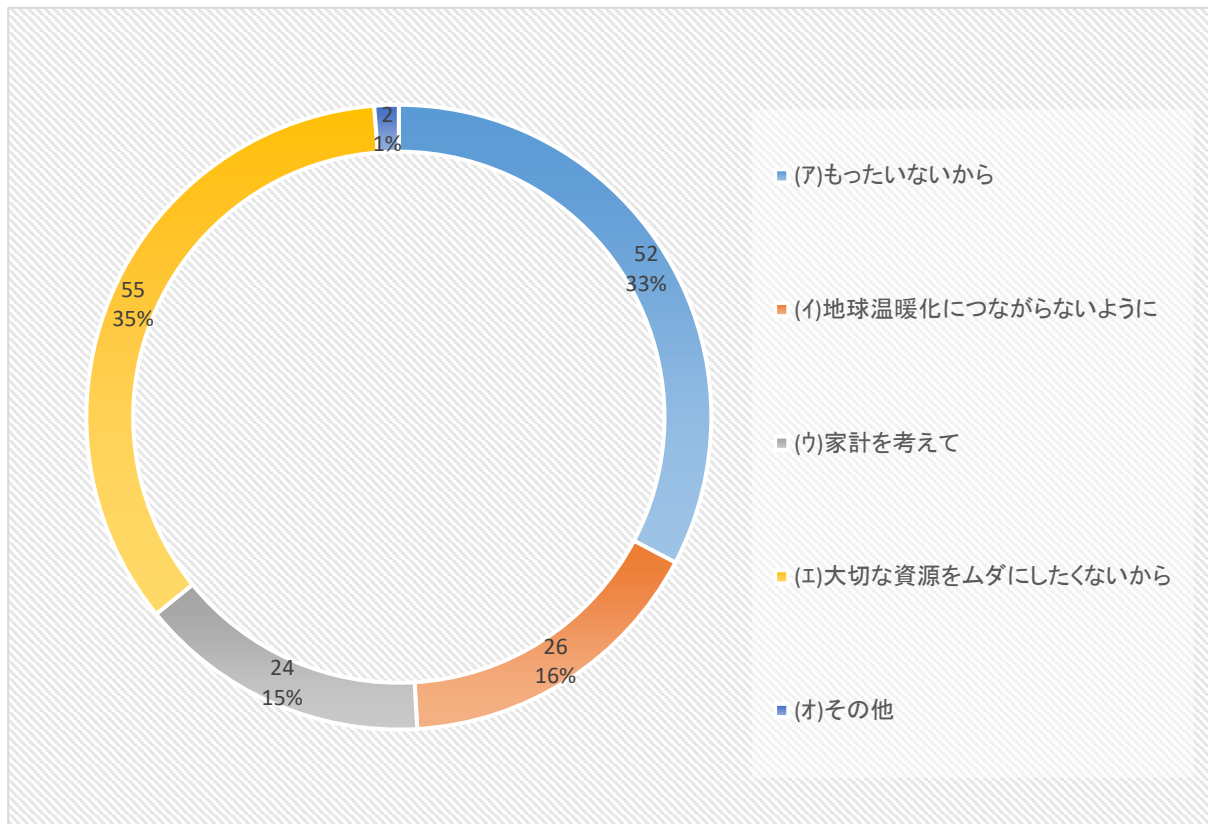
古い物から使う。

買いだめしすぎない

家庭菜園の野菜をおすそわけ。

《1-2》取り組んでいる理由を教えてください。

(ア)もったいないから	52
(イ)地球温暖化につながらないように	26
(ウ)家計を考えて	24
(エ)大切な資源をムダにしたくないから	55
(オ)その他	2

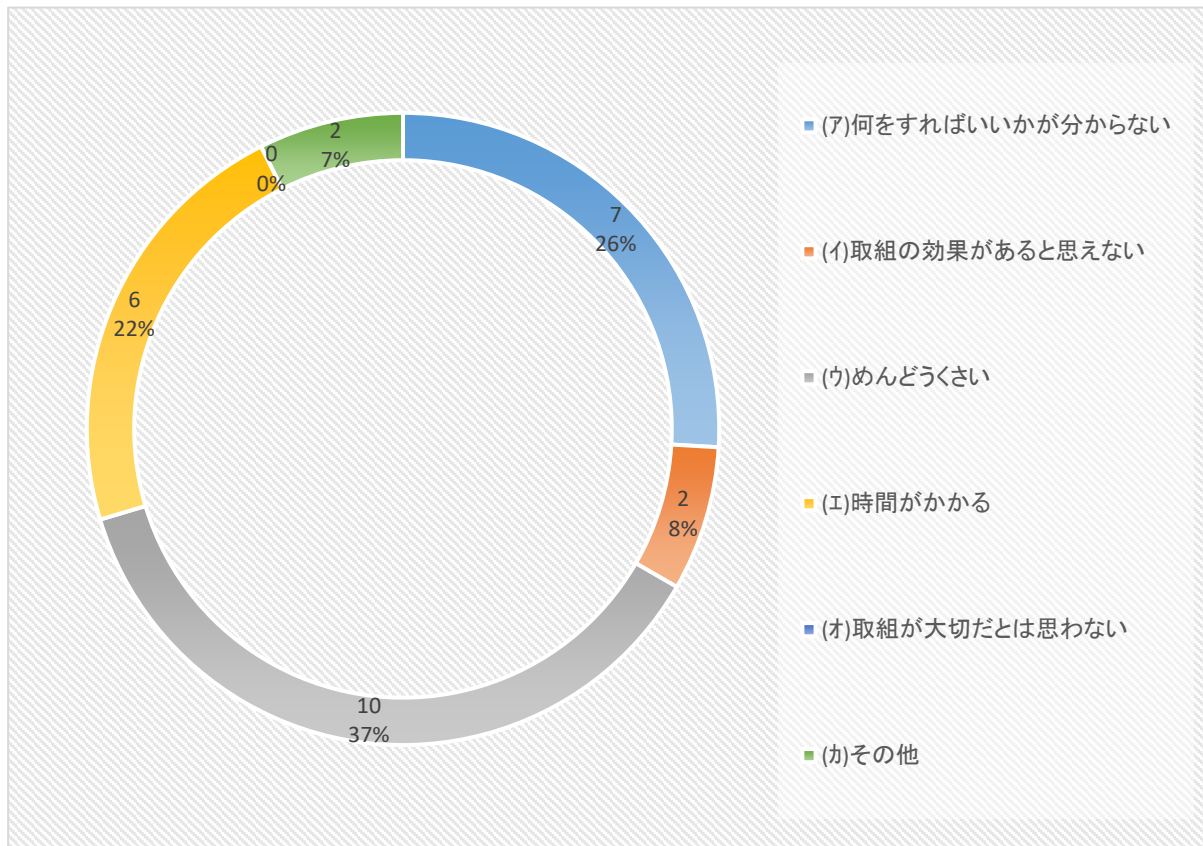


自分のみでなく地域で一緒に取り組む

健康のため

《2》取り組まれていない理由を教えてください。(複数回答可)

(ア)何をすればいいかが分からない	7
(イ)取組の効果があると思えない	2
(ウ)めんどくさい	10
(エ)時間がかかる	6
(オ)取組が大切だとは思わない	0
(カ)その他	2



効率の良いやり方を学びます

まだ問題意識が低い。料理の主体は別の人。

3. これから、自分たちに何ができるか。

生活スタイルに合わせて一つでも取り組めるようにする。

安売りに行き買いすぎない事。

広告に惑わされず安売りには行かない。余分な物を買わない。

食生活改善推進協議会の中でも研修会調理実習会の時など。皆で声がけできることから。中学生など生徒への声掛け、啓発。

ゴミの削減

個人の意識の向上のための活動を広げる

色々と取り組んでいる情報を知りたい

ごみの捨て方。環境課に働きかける。

食べきれぬ量を作る

食品ロス削減運動に協力する

ロスを出さないよう意識付け。そこから始める。

まず自分が7ヶ条+〇〇を実践する。親しい人に知らせる。イベントの活用。

1つずつからでも実施していく

普段から心がける

意識づけてロスノンをすることでゴミ削減に繋がる

毎日の生活の中で孫たちに少しずつ機会あるごとに言葉かけしようと思う。

一人一人の意識化と全体での取り組み

常に意識し心掛ける

一人一人の心がけ

同じ意識を持った人を講演会に誘いたい

全ての食材に感謝し全部を食べきる。料理の工夫を試みる。

農薬を使わない。オーガニックの物を買う。

一人一人の意識。貰いすぎたら分け合う。

調理から見直しを考える。

キッチンのゴミを少なくする。

自分に出来る事から実施していく。

毎日丁寧に暮らす。

買いすぎない、作りすぎない。

毎日使う野菜から試してみる。

食材を丁寧に使う。

野菜の皮を使った料理をする。

学習会のお話を参考に頑張りたい。

食品を大切にする。啓発チラシを台所に貼り実践してみる。

買いすぎない、作りすぎない。

しまねの七ヶ条をある程度実践できているがより一層努力しようと思う。

自分が良く知り実践している事。

出来る限りの自給自足を継続していく。

家族に食品ロスのお話をする。

材料をまるごと使うようにしたい。

日々の生活を計画的に。食事の準備。

プラスチックの減少。食品ロスをできるだけなくす。

孫と一緒に学びたいと思う。

買いすぎない。

自分の事として見聞きするようにしたい。

肉を少なくして野菜中心の食事にする。

もったいないの気持ちをもっとしっかり日常に活かしたい。

家族での話し合い。小さなことでも自分に出来る事を心掛ける。

使い切る。

食品を大切に使う事。

手前から買う。当たり前にしてきたい。

意識を持って取り組む

困っている方に食品ロスを快く受け取ってもらうにはどうしたらいいか？中間の取組が必要だと感じた。

4. 講演、研修内容を踏まえた上で、どんな取組が必要と考えるか

また、どこを対象に(誰に・どの層に?)啓発を行うべきか

各地区で。

小中高と学生のいる家庭。

若いお母さん。子供たちに。

各関係機関の繋がりでも多方面に。

スーパー食品を取り扱う業者にリサイクル。他に利用できる方法を紹介する。

町民を対象としたゴミの実態研修

食材を使い切る

隠岐の島町役場へ行けばどうすれば良いかどんな事でも分かるようにしておいてほしい。

80、90代くらいの高齢者、一人暮らしにも啓発必要。今までの作りすぎ買いすぎためこみ片付け。高齢者をどうすれば意識改革できるか。

食べる事は生きる事そして環境にもつながる。気持ちが必要。

出来る事が家庭で違うため、7ヶ条を広めていく必要がある。保育所保護者や子供達に啓発する。食品の有効利用について (料理、保存方法等)

子供達。学校教育

全ての人に講演。ゴミの分別についても。

地区ごとに啓発。全町民に活動方法を考える。

各家庭、各事業所への取組。行政とタイアップした一つに絞った取組

地域、学校(給食を含む)への啓発

意識を持つ事。誰にでも出来る事だから皆で考える。

身近な近所から声がけしていきたい。

家族に話し意識化させることが必要。職場で講演会を開く。

若いお母さんたちに。

保育園や小学校の参観日に。中学生高校生の社会問題の学習の場で。

スーパー、企業へ。学校給食を食べている生徒。残さず食べきる工夫を教える。

ロスノンの徹底。職場で。

当たり前のこととして教育の場として知識を伝えていく。授業参観の活用。

飲食店、スーパーの総菜の廃棄何かできないか。

友人へ。

保育園の調理師、栄養士へ。

若い世代。

住んでいる地域で。

各家庭で一人一人が考えて実行するべき。若い人に本日の講演/学習会をして欲しい。

家庭。子や孫に。

小さなことでもまずは家庭から。

一人一人の意識改革。

子、孫たちへ。

主婦層、学校、調理の場。

大きな問題なのでどうしていいかわからないが、身近に出来る事、例えばたくさん買い置きしないような工夫。

家族、身近な人たちと協力。

婦人会で皆と一緒に。

子ども達、高齢者。

家庭から。

男性対象の勉強会があれば良いなと思う。

子ども。PTA。

幼稚園、保育園の子

子ども、若い世代。

子どもへ。

男性に是非啓発活動を行ってほしい。

5. 食品ロスについて、現在興味のある取組・聞いてみたい講演等について

新鮮なうちに下ごしらえを取り組んでいきたい。下味料理のやり方など。

ゴミを減らす

食品だけでなく、プラスチック等の収集にも望んで欲しい

冷凍保存。残飯処理のしかた。

分別の仕方を詳細に

家庭内ゴミ(食品)自家処理について

野菜果物丸ごとおいしく食べる方法が分かる講演会。

地産地消を心掛ける。

生ごみはボカシで肥料にする。

調理に関する具体的なロスを知りたい。

砂糖醤油を減量した美味しい調理法がないか知りたい。

陸上養殖による食料自給率UP、フードマイレージ削減について。

リサイクルといわれていることが本当に実施されているのか。実態について。

食品ロスをテーマとした料理教室。

海外の学生の取組を広げて欲しい。

水を使わない料理、調理法。災害の際に役立てたい。

6. 回答比率

≪ 1 ≫ 男性	【 0 】
(ア) 10代	0
(イ) 20代	0
(ウ) 30代	0
(エ) 40代	0
(オ) 50代	0
(カ) 60代	0
(キ) 70代	0
(ク) 80代	0
(ケ) 90代	0

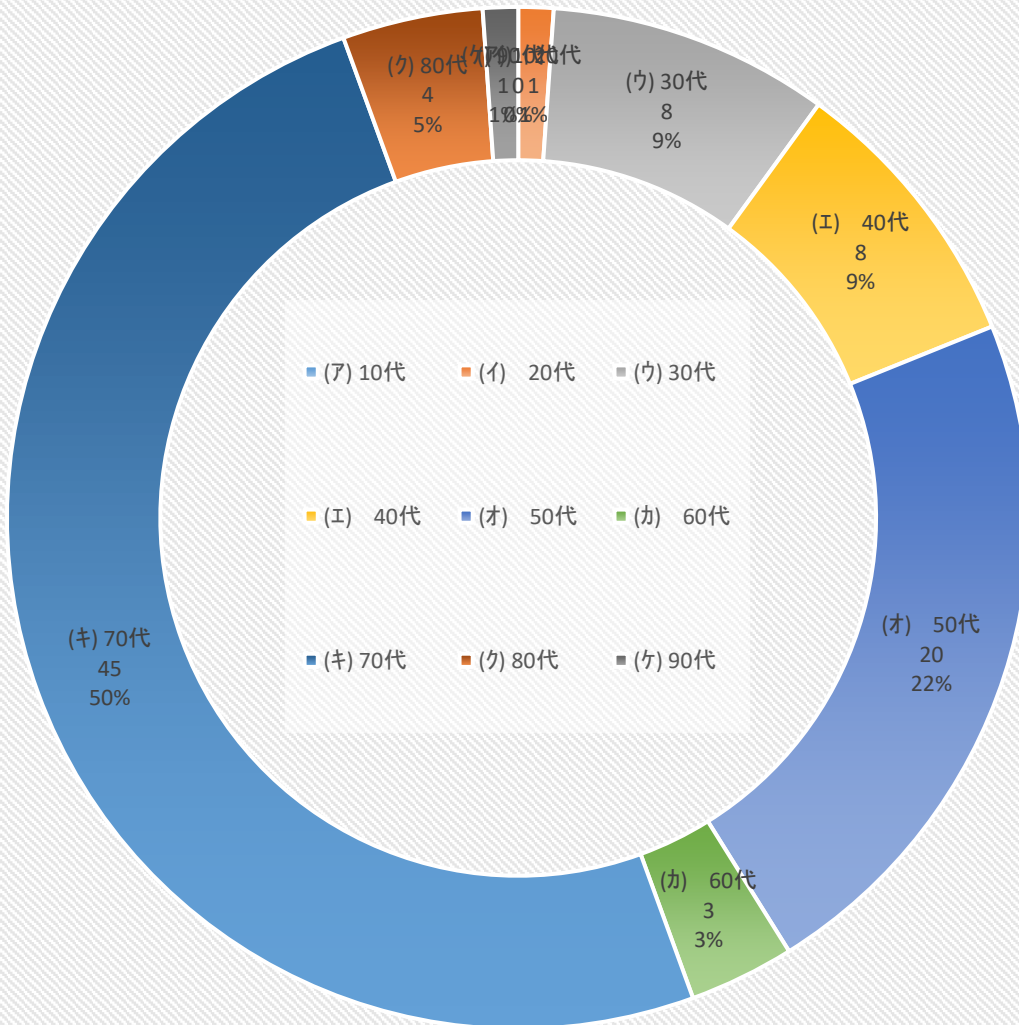
※男性参加無し

《 2 》女性

【 90 】

(ア)	10代	0
(イ)	20代	1
(ウ)	30代	8
(エ)	40代	8
(オ)	50代	20
(カ)	60代	3
(キ)	70代	45
(ク)	80代	4
(ケ)	90代	1
合 計		90

女性参加者割合



【 アンケート実施/感想 】

コロナ禍ではありながら、感染症対策に気を付け、松江市、出雲市、隠岐の島町で地域学習会を実施することが出来た。開催地によっては他団体との交流や行政からのサポートもありどの内容も充実した学習会となった。全体の反省としては一般の方の参加はあったが、男性が0人であったため、工夫して呼び込む必要があると感じた。

皆、食ロスへの関心はあるが食べ残し以外の問題が多かった。

日頃から6割以上の方がしまねの7ヶ条を実践していることが把握できた。

まずは家庭から一人一人の意識改革をし、しまねの七ヶ条を実践することが出来れば、県民の意識向上に繋がると感じた。

反対に食ロスへの関心が無い方で、時間がかかる、めんどろという回答が多くはあったが、簡単・便利・楽に焦点を当てれば問題は少し解消できるかもしれない。併せて料理を通じ食ロスをテーマとした料理教室、災害時の水を使わない調理法、冷凍保存の賢い活用法等を組み込んだ学習会を考えていきたい。

また今回の結果を踏まえ幼保・小学校の若い世代、80代・90代の独居の方、男性へ情報発信していく。

